

Book Report:

April 15, 2014

小さな闇

私は二十歳で、父と南米のブエノスアイレスに行きました。父の趣味はクラシックギターで、実はギターを買いにブエノスアイレスに行きました。その日、一日中ギター屋さんにいると思ったので、父と後でホテルで会うことにして、私は一人で店を後にして、エビータのお墓も見ようと墓地へ行きました。墓地は立派な建物が並んで、住宅街だと思ったとき、私は母のことを思い出し、母の墓は小さいことを思い出し、母にこんなすごいお墓を作ってあげようと思い、すぐに気持ちが変わりました。なぜなら、母はこんな小さな家に入るのが何よりもいやでした。

父は奇妙なところがあり、自分が中心の時、逃げ出し、夜遅く酔っ払って帰ってきました。

それでも両親は仲が良く、彼達になり、愛し合って幸せでした。

母は三年前に癌で亡くなり、その後、私は父と生活しています。祖母はパリに住む有名な画家の愛人でしたが、ある日、祖父は若い娘と結婚し、祖母を投げ出しました。その後、祖母は精神病にかかり、家の中に母に小さな段ボールの家を作り、母のために作ったので、そこに住んでほしいと泣いて頼みました。それから、二週間、母はそこで暮らし、その家から一歩もでなかつたので 学校の教師が様子を見に来て、母は保護されました。母はずっとあの家の中の

暮らしの夢を見て、父が帰ってこない時、母の世界はあの小さな家に帰ってしまうことがありました。そのこと、母は、死ぬまで、父には話しませんでした。

- この話は、人はそれぞれの苦しみがあり、話さないで、自分の中に納まり、普通の生活をおくるところが不思議で仕方ありません。時分のせいで無いのに隠す必要はないと思います。お互いに話し合えば、心理的にも助け合って、もっと楽な生活ができたのではないのでしょうか。
- この話は非常に劇的であり、お互いに会話（コミュニケーション）が行われていないことを示しています。
- この話では、子供の時のトラウマが人の個性、もしくは性格を変心できることを深くかん考えさせられました。たぶん、このトラウマがなければ、このお母生き方がまったく違っていたかも知れません。それによって、お父さんの怖さも¥無かったかも知れません。
- 私は五歳の時両親が分かれ、その後、母は女一人で私たちを育てました。私たち兄弟は母と、ずっとオープンコミュニケーションをして、何もかも話会い、相談をしているつもりです。多分、その中で何かで本当に言えないことがあるとしても、私と、兄と、次女はとても仲が良く何もかも相談しています。特に私と兄は何もかも相談して、家のことを決めることにしています。
- 私はボクースの中にいることは感じたことはありません。母は自由さを与えてくれました。
- お母さんの闇は母親に家の中で閉じこまれ、心理病の母を幸せにするように、自分を犠牲にしたこと。私はまだ大人の闇をわからないので、これからあると思います。でも、分かるのが、愛し合っているが、お互いの暗い部分に強く、あひかれあっていること。

- 誰でも闇はあると思いますが、この話の小さな”大きい”闇ではないと思います。小さな闇はもっと軽いものだと思います。